

令和 6(2024)年度 事業報告書

(令和 6(2024)年 4 月 1 日から令和 7(2025)年 3 月 31 日まで)

1 概要

本財団は 1945 年 4 月 4 日に財団法人海洋化学研究所（文部省所管）として設立され、2012 年 4 月 1 日に一般財団法人海洋化学研究所（京都府所管）へ移行し、2016 年 9 月 1 日からは、公益認定を得て一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017 年 12 月 21 日からは、変更認定を得て内閣府所管の公益財団法人となった。

本財団は、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として（公 1）～（公 3）の事業を行う。

賛助会員の数は、名誉顧問・会員 3 名、個人会員が 90 名、学生会員が 10 名、法人・団体会員が 5 法人である（令和 7 年 3 月 31 日現在）。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員 4 名、理事 5 名、監事 2 名である。

法人の職員は、常勤職員が 1 名である。

2 （公 1）学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の 2 種類である。

ア 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1 件 150 万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、海外の大

学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1件 30万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2024年11月6日から2025年2月7日まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用いて、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の4名である。

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

廣瀬勝己(元気象庁気象研究所地球化学研究部部長)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

2025年2月22日、選考委員会が開催され令和7年度助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2025年2月23日に理事会みなし決議にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

ア 研究助成金（4名、合計3,800千円）

課題番号	代表者氏名	代表者所属・職名	研究題目	助成金額（千円）
R7-R3	Alam Mahboob	Assistant Professor, New Research Field Development Project, Institute for Chemical Research, Kyoto University	Palaeoceanographic redox reconstruction of the Black Sea (BS)	940
R7-R4	小畑 元	東京大学大気海洋研究所・教授	北太平洋亜寒帯およびベーリング海における微量金属元素の分布および輸送プロセスの解明	1,000
R7-R5	樋口富彦	京都大学・人間・環境学研究科・特定准教授	高解像度元素分析による魚類眼球水晶体に刻まれる摂餌履歴の探求	930

R7- R10	松中哲也	金沢大学環日本海域 環境研究センター低 レベル放射能実験施 設・助教	地球温暖化に伴う北極海にお ける難分解性有害有機物群の 負荷と二酸化炭素吸収への影 響	930
			小計	3,800

イ 海外渡航費に関する助成金（1名、合計 200 千円）

課題 番号	代表者 氏名	代表者所属・ 職名	渡航目的・渡航先	助成 金額 (千 円)
R7- T2	水谷純 基	京都大学大学 院理学研究科 化学専攻 水 圏環境分析化 学分科・修士 1年	北太平洋亜寒帯からベーリング海における 海域において、微量金属元素 Pd, Pt, Au の海水中濃度の 3 次元鉛直断面分布を明ら かにするためのサンプル採取 渡航先：ダッチハーバー(アメリカ合衆 国・アラスカ州ウナラスカ), バンクーバ ー(カナダ・ブリティッシュコロンビア州)	200
			小計	200

3 (公2) 学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

第 44 回石橋雅義先生記念講演会

令和 6 年 4 月 27 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時、百周年時計台記念館にて開催。共催日本分析化学会近畿支部。出席者 39 名。

まず、講演会に先立って以下の者に、学術賞及び奨励賞を与えた。

第 39 回海洋化学学術賞受賞を気象研究所気候・環境研究部・主任研究官 石井雅男 氏に授与

第 8 回海洋化学奨励賞 (U40) を金沢大学理工研究域物質化学系・准教授 眞塩麻彩実 氏に授与

第 8 回海洋化学奨励賞 (U30) を福岡県保健環境研究所・研究職 植木隆太氏に授与

続いて、3 名の受賞者が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

第 39 回海洋化学学術賞受賞記念講演

- 「海洋の広域炭酸系観測による炭素循環の研究」 気象研究所気候・環境研究部主任研究官 石井雅男
- 第 8 回海洋化学奨励賞 (U40) 受賞記念講演
「水圏環境における白金族元素の分布と動態に関する研究」 金沢大学理工研究域物質化学系准教授 眞塩麻彩実

第 8 回海洋化学奨励賞 (U30) 受賞記念講演

- 「亜寒帯北太平洋とインド洋における Zr, Nb, Hf, Ta の海洋地球化学」 福岡県保健環境研究所研究職 植木隆太

78 周年秋季講演会

令和 6 年 11 月 9 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時、京都大学楽友会館にて開催。出席者 31 名。

- 「将来に比較される鮮新世温暖期の西南極氷床の大規模融解：碎屑物の同位体比データと氷床モデルによる評価」 富山大学学術研究部（理学系）・教授 堀川恵司
- 「オホーツク海と北太平洋中高緯度域における植物プランクトン群集の季節変化とその支配環境因子」 北海道大学大学院地球環境科学研究科・教授 鈴木光次

京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に「化学者クラブ」との団体があるわけではない。

年	月日	題目	講演者	所属
2024	4月6日	生物の環境適応・多様性獲得に寄与する Vector Particle (VP) とは!?	千浦 博	東京農工大学農学府農学研究院生物制御科学部門細胞分子生物学研究室・産学官連携研究員
2024	5月11日	極域の海氷にすむ生物たちの話ー北極と南極の海氷下の観測から	原田 尚美	東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授
2024	6月1日	分子サイズを鍵にして水圏溶存有機物の動態と物質循環的役割を再考する	山口 保彦	琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門主任研究員
2024	7月6日	太陽マイクロ波エネルギーが水惑星地球の生命細胞エンジン「ミトコンドリア」を育む	柳田 祥三	大阪大学名誉教授
2024	8月3日	炭化フッ素と炭化水素の物性の考え方の本質的な違い	長谷川 健	京都大学化学研究所教授
2024	9月7日	地域の歴史から学ぶ災害対応ー比良山麓ー	中西 正己	京都大学名誉教授
2024	10月5日	漂流の果て	左右田 健次	京都大学名誉教授
2024	12月7日	地球温暖化対策としての	三戸 彩	公益財団法人地球環境

	日	CCS (二酸化炭素の回収・貯留)	絵子	産業技術研究機構 CO2貯留研究グループ
2025	2月1日	分析技術の進歩と鉱物科学	三宅 亮	京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物質科学講座教授
2025	3月1日	足下を覗いて地球を調べる：土・水の有機物分析	藤嶽 暢 英	神戸大学大学院農学研究科生命機能科学専攻教授

4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

併せて、刊行した「海洋化学研究」をデジタルアーカイブ化している。

海洋化学研究 (第36巻1号) を2024年4月27日に発行。内容は、以下のとおりである。

ページ	種類	タイトル	著者
1	巻頭言	バブルの頃のこと	黒木 和彦
3	月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう！第8章 半導体電源を用いるマイクロ波反応装置	西岡 将輝・岸原充佳・松村竹子
7	月例卓話	地下水の涵養域・滞留時間の推定法－水質、同位体を利用した調査の紹介－	藪崎 志穂
12	月例卓話	湖沼行脚を振り返る	中西 正己
19	月例卓話	アマモ場の保全活動	楠部 真崇

21	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	近藤 能子
24	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	久保 篤史
26	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	楠部 真崇
29	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	鄭 臨潔
31	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	眞塩 麻彩 実
33	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (研究助成) 成果報告書	高野 祥太 朗
35	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (海外渡航助成) 成果報告書	植木 隆太
36	学術助成報告	令和5年度伊藤光昌氏記念学術助成金 (海外渡航助成) 成果報告書	深澤 徹
37	RICO だより	公益財団法人海洋化学研究所 令和5年度事業報告 (抜粋)	
38	RICO だより	第39回海洋化学学術賞 (石橋賞)	
39	RICO だより	第8回海洋化学奨励賞	
41	RICO だより	令和6年度伊藤光昌氏記念学術助成金	
42	RICO だより	第44回石橋雅義先生記念講演会	
43	RICO だより	京都化学者クラブ	
	RICO だより	賛助法人・団体会員名簿・投稿案内	

海洋化学研究 (36 巻 2 号) を 2024 年 11 月 9 日に発行。内容は、以下のとおりである。

51	巻頭言	地方国立大学理工系学部学科の将来	藤永 薫
53	第 39 回海洋化学学術賞受賞記念論文	海洋の広域炭酸系観測による炭素循環の研究	石井 雅男
71	第 8 回海洋化学奨励賞受賞記念論文	水圏環境における白金族元素の分布と動態に関する研究	眞塩 麻彩 実
77	第 8 回海洋化学奨励賞受賞記念論文	亜寒帯北太平洋とインド洋における Zr, Nb, Hf, Ta の海洋地球化学	植木 隆太
83	総合論文	ネオジム同位体比による新たな産地同定手法—地球化学分野における化学トレーサーの異分野への展開—	田副 博文
94	総合論文	高知市中心部における降下物の化学成分の解析	一色 健司
103	月例卓話	測定値の不確かさに関する間違いと混乱について	河合 潤
107	月例卓話	金属鉱床探査の現在地と日本の役割	石田 美月
113	月例卓話	生物の環境適応・多様性獲得に寄与する Vector Particle (VP) とは!?	千浦 博
123	月例卓話	極域の海氷にすむ生物たちの話—北極と南極の海水下の観測から	原田 尚美
129	RICO だより	公益財団法人海洋化学研究所役員名簿	
130	RICO だより	78 周年秋季講演会	
131	RICO だより	京都化学者クラブ	
132	RICO だより	賛助法人・団体会員名簿、投稿案内	
138	RICO だより	令和 7 年度伊藤光昌氏記念学術助成申請公募	
139	RICO だより	第 40 回海洋化学学術賞・第 9 回海洋化学奨励賞候補者推薦のお願い	

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし（海洋化学研究第 1 巻から第 37 巻までのすべての論文をオープンアクセス化）、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。URL は、<http://www.oceanchemistry.org/>

以上

令和 6(2024)年度
事業報告書の附属明細書

(令和 6(2024)年 4 月 1 日から令和 7(2025)年 3 月 3 1 日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上